てんぱ一新聞

'14.2.No.200
発行責任 市岡日出夫
0883-88-5292

勝手気ままにと200号を迎える

先月号で、小さく(2)お知らせくまじた様に今日で、「てんぱ一新聞」が200号になりました。

勝手、気ままに書きつらね、その時、その月の事の祖谷の一面を書き、ほとんど押しつけの様に配ってきましたが、200号を迎えて、ちょっと過去に目を向けみましたが、自分でも驚く様、その当時何に熱中していたが、伝わってくるのです。

月一回の日記の様な感じですが、私的な事は書いていませんが、私的な印象を書きつらねています。

こんなに長期に続け様ともなく、ただその時々、発行し続けいつとはなく、月一回の発行となり今では、当然、義務の様で、発行しないと、どこかが欠けている様で、忘れ物をした感じになってきています。

一日一日の積み重ねで200号になっていたという事です。

振り返えれば長いのですが、私の中では、長い印象はありません。むしろ、今月は、何を書こうかということだけがあるだけ。

二十年位の間には、祖谷も大きく変わってきました。今では、ドラツードアで、家まで車で行くことが出来る家がほとんど。道路もトンネルがいくつも完成し、曲りくねった祖谷の道も、大きく変わりました。

人も変わりました。学校も、ただ一校になってしまいました。だから、悪くなっただけとはおもいませんが、それでも、妻こんどばかりでもありません。

各号に目を通していると、そうでもありませんが、それでどうなったの…と問いたい様な気がします。

想い出だけを語る様にはなりたくないので、この変でおきますが、二〇号は三月です。今までの様に、気ままに、勝手に書いて、配りますので、読んで頂ければ嬉しい限りです。

いつまでという目標はありませんので、突然やめるかも知れませんが、祖谷の一面を伝え続けていきたいとおもいます。

第1号 1997年5月
第10号 1998年7月
第20号 1999年4月 カラー化
第30号 2000年4月
第100号 2005年9月
第98号より 両面になる
第150号 2009年11月
第200号 2014年2月